

発行日：2016年9月25日

発行：地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター

## 患者支援センター長 就任のご挨拶

このたび里村先生の後を引き継ぎ患者支援センター長に就任しました。副院長の位田忍です。一言、ご挨拶を申し上げます。

母子医療センターは、「母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します」を基本理念として35年前より走り続けています。高度で先進的な急性期医療を行う病院で、外科系診療科、産科・新生児科、循環器部門、PICUを中心に多くの子どもたちが救命されています。その中であって、キユアできない子どもの慢性期のケアを行い、子どもたちの成長や発達を手助けする慢性期の医療も母子医療センターの役割です。私は1991年、小児部門が立ち上がった時から25年間、栄養消化器内分泌分野の診療に携わり、子どもの「成長障害」を診療の軸に置き、その一環としてHPNやHENといった「歩く重症児の在宅医療」からスタートして在宅医療全般の発展にも関わってまいりました。

患者支援センター長  
位田 忍

患者支援センターは、当センターに受診されている患者さんのための総合窓口です。サービスの内容には在宅医療支援と地域連携支援と総合相談があり、入退院センターの役割も担っています。患者さんがよりよい医療を受けられるように、また家族とともに地域や家庭で安心して生活できるように、多職種のスタッフがお手伝いするワンストップ窓口です。スタッフには医師・看護師だけでなくケースワーカー、心理士、保健師、薬剤師、事務員が揃っており、それぞれ院内組織の縦の力を集結する横糸の役割を担っているのが患者支援センターです。重篤な疾患や慢性の疾患を持つ患者が、地域社会に踏み出す道は安易なものではありません。医療だけでなく福祉サービスの利用、教育を受けること、遊びを含めた日常生活を確保するなどのため、地域の医療機関、保健所、福祉サービス機関、学校など多くの機関の助けが必要で、専門家の情報が役立ちます。多職種からなるスタッフは専門知識を生かして一般社会の多機関との連携のコーディネーターの役割を担ってきています。

さらに、今、病院全体で移行期医療の確立に向けた検討がされています。疾患を持ちながら成長している子どもたちに対して、自立を支援し、こども病院である母子医療センターを巣立たせる仕組みを検討しています。日々のケアに加えて、子どもたちやご家族が疾患を理解するための年齢・理解度に応じたプログラム作成や学校との協力体制の確立も大切です。患者支援センターの活動は、まさに移行期医療の支援でもあります。

患者さんがより生きやすい方法を、ご家族や地域で関わっておられる専門家の皆さまとともに一緒に考え、病気を持ちながら成長発達していく子どもたちの自立のお手伝いもしたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

(患者支援センター長 位田忍)

## 人事異動 (2016年7月1日付)

副院長 ▶ 位田 忍

## 基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します。

## 基本方針

- 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します。
- 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います。
- 地域の保健医療機関と連携して、母子保健医療を推進します。
- 母子に関する疾病の原因解明や、先進医療の開発研究を進めます。

## 看護部長のご挨拶

みなさん、こんにちは！

本年4月1日付で看護部長に就任致しました福寿祥子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。  
平素は医療連携にご協力いただき感謝申し上げます。

私たち看護職員は「親と子の絆を大切に心のこもった看護を提供する」という理念のもと、さまざまな健康レベルにある妊産婦・新生児・小児とそのご家族に安全で安心できる看護を提供できるように取り組んでおります。

また、医師をはじめ保育士、心理士、ホスピタルプレイ士などの他職種と連携しながら、患者さんがより安心して主体的に治療や療養生活に臨めるように、個々の患者さんの



看護部長 福寿 祥子

ニーズに応じた日常生活援助を行っています。

現在、4名の専門看護師(小児看護、家族支援)、8名の認定看護師(皮膚・排泄ケア、感染管理、新生児集中ケア、小児救急)が病棟および外来、地域とそれぞれの分野で専門とする看護ケアの実践や相談に対応しております。

今後も患者支援センターを窓口にも、患者さんやご家族が安心して家庭や地域に戻れるよう地域医療機関との連携を強化し、相互の理解を深めながら「顔の見える連携」を行っていきたくと考えております。

ご指導、ご助言をよろしくお願い申し上げます。



## 呼吸器・アレルギー科

## 診 療 科 の 紹 介

呼吸器・アレルギー科は2014年4月より開設されました。

地域の先生方からは食物アレルギーや慢性咳嗽、喘鳴精査、気管支喘息など幅広くご紹介いただいております。この場をかりて御礼申し上げます。

呼吸器・アレルギー疾患は非常にありふれた疾患ですが、中には重症なものや稀な疾患が混じっています。当科では気管支鏡検査も行っており、気道異物を疑う症例や気管狭窄、軟化症を疑う症例などの精査が可能です。

### 食物アレルギー

2016年度より日帰り入院での負荷テストを行っています。RAST高値のハイリスク例や原因食品が多品目にわたるなどの重症例はもちろん、重症でなくとも当科を希望していただける場合にはどうぞご紹介ください。



呼吸器・アレルギー科スタッフ

### 気管支喘息

気管支喘息は通常のフローボリューム曲線に加えて気道過敏性テスト、運動負荷テストなども必要に応じて実施しております。長期管理にかぎらず、発作入院にももちろん対応可能です。重症度にかかわらずご紹介ください。

今後も地域の先生方と連携し、より良い医療を提供していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます

(呼吸器・アレルギー科 錦戸知喜)

手術室

2014年5月より増築された手術棟に移り、 ангиオ室を含めた10室に増室され、年間約4500件の手術や検査を行っています。大きな窓と暖かなイラストが迎えてくれる手術室で、子どもたちが少しでも安心して手術が受けられるようにサポートしています。また、分娩部と建物内で繋がっており、緊急帝王切開にも常に迅速に対応できる体制をとっています。

2015年2月より、患者さんやご家族の方と術前より関わり、手術や麻酔に対する不安や疑問を表出できる環境を作ることを目的として手術看護外来を行っています。

患者さんの年齢に合わせた方法で、手術や手術室への恐怖心が少しでもなくなるように説明しています。

その他、ご家族の様々な不安に関してもお話を傾聴させていただいています。

手術室は患者さんと直接かかわる時間は少ないですが、患者さんやご家族が安心して手術が受けられるように病棟との連携も大切にしています。



手術室スタッフ

<手術看護外来の内容例>

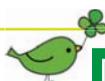
手術室の中でどのようなことを行うのか

\*心電図シールの貼り方

\*麻酔に使用するマスクを使つての呼吸方法

\*マスクの香りの選択 など

(手術室 看護師長 中林頼子)



専門看護師の紹介

当センターには1名の家族支援専門看護師が勤務しています。



家族看護専門看護師  
山内 文

家族支援専門看護師は2008年に認定が開始された比較的新しい分野で、現在全国で44名と少数です。

私は昨年末に認定を受けた専門看護師1年生なので、皆さんに役割を知っていただこうと試行錯誤しているところです。

子育て期の家族は、子どもの出生に伴って絆を深め、子どもの自立へ向けては絆を少し緩めながら家族として成長していきます。その中で出会う出来事に、家族メンバーそれぞれの役割を柔軟に組み替えたり、周囲のサポートを獲得するなど家族なりの方法で対応していきます。これらの体験が家族の力になっていくのですが、当センターでは家族として出発したばかりで共通の体験が乏し

全ての専門看護師に共通する6つの役割(高度実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究)を通して看護の質向上のために活動しています。

患者を含む家族本来のセルフケア機能を高め、主体的に問題解決できるよう働きかけるのが特徴です。

かったり、子どもの病気という大きな出来事に自分達の間では対処できないと感じたり、子どもの病気によって体験が阻害されたり…というご家族に出会うことがあります。

私はこのようなご家族が、これまでの歴史で培ってきた力を発揮し、直面した課題が今後の力につながるよう、また長期的な視野で家族の課題を達成できるよう、家族の全体像をアセスメントしサポートしています。その中でも家族の主体性を大切にしながら少しだけ手を添えさせていただく、という関係作りを最も重視しています。

当センターに関わる方々と一緒により良い支援へ発展できることを楽しみにしています。



## 第8回 地域連携懇話会を開催しました (2016年7月21日)



地域連携懇話会は、具体的な患者症例をもとに当センターが提供する医療やケア、連携方法の課題を把握し、改善することを目的に年2回開催しています。

在宅医療を行っている患者さんの医療評価入院を受け入れてくださっている2つの施設の医師や看護師の方から、医療評価入院の現状と当センターへの要望についてご意見を伺い、受け入れの条件や看護ケアの違いを確認し合う機会となりました。

要望

- ・当センターから提供している医療情報項目の追加
- ・医療評価入院中の状態悪化時の迅速な受け入れ体制の確保

↓  
ご意見を踏まえ、見直し改善につなげます。

医療的ケアを必要とする患者さんが安心してシームレスなケアを受けることができるよう、今後も地域の医療機関と連携を図っていきたく思います。

## イブニングセミナーのお知らせ (医療関係者対象)

大阪府医師会生涯教育研修システム1単位に認定されています。

お気軽にご参加ください!



引き続きイブニングセミナーを開催いたします。

今年度は水曜日の開催もあります。

時間：17時30分～18時30分

場所：研究所大会議室 事前申込み：不要

日程	「テーマ」	担当部署 / 講演者
2016年10月13日(木)	「検尿異常への初期対応」	腎・代謝科 / 山本 勝輔
2016年12月7日(水)	「小児整形外科の現状」	整形外科 / 樋口 周久
2017年2月2日(木)	「小児専門病院の子どもの看護(仮題)」	看護部 / 福寿 祥子

News

当センターオリジナルキャラクター

モコニャンが  
ゆるキャラ®グランプリに  
エントリーしました!



母子医療センターを  
たくさんの人に  
知ってもらえるように  
がんばるニャン♪



病院見学ツアーも引き続き実施いたします。  
参加ご希望の方は事前に参加者の氏名・  
医療機関名・職種・人数をご連絡ください。

TEL 連絡先 ▶ 患者支援センター 0725-55-3113

## 交通のご案内



診察時間：平日 午前9時～午後5時  
予約受付時間：平日 午前9時～午後7時

地方独立行政法人大阪府立病院機構  
大阪府立母子保健総合医療センター  
患者支援センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町840

【初診専用】 TEL：0725-56-9890 (直通)  
FAX：0725-56-5605

【その他】 TEL：0725-55-3113 (直通)  
FAX：0725-56-7785

医療者対象  
ホットライン

(※24時間受付直通)

【PICUホットライン】

☎ 0725-56-1070

【小児がん・  
白血病ホットライン】

☎ 0725-57-7677

この広報誌に関するご意見・ご要望はFAXにて患者支援センターにお寄せください。